

●生活支援コーディネーター

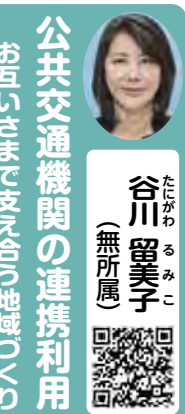


猫の適正飼養

質問 飼い主のいない猫特別対策事業を新たに開始する経緯と事業内容は。

答弁 これまでも猫の適正飼養と飼い主のいない猫に起因するふん尿等の被害を防止し、良好な生活環境を保持することを目的に対策してきたが、年間900件ほどの苦情が寄せられたことから、野良猫対策の事業を新設する。

この事業では、区長や環境保健委員を中心とした町内会等に加えて、本市に登録のある動物愛護団体が責任を持って行う野良猫の不妊・去勢手術費に費用の持ち出しが発生しないよう、1頭2万円まで、年度内に1団体20頭までを支援する。併せて、手術を行った野良猫の餌やりやふん尿等の処理を行う活動に対し、飼養料を1頭1万円、年度内に1団体20頭まで支援するものとし、年間事業費として8団体分の予算を計上した。



公共交通機関の連携利用

質問 無料のおとしよりぐるりんタクシーを利用できる人ときかない人の格差について、本市の考えは。またバスとの連携利用がしやすくなるようなルート図を作成できないか。

答弁 本事業は、既存の公共交通機関が十分でない地域での高齢者等の足の確保という観点でルート設定しており、今後もルートの見直しや新設について地域の要望などを考慮して検討する。新たなルート図については、より利便性の高い表示形式を研究したい。

質問 協議体の第2層生活支援コーディネーターの配置と拠点整備を行う考えは。

答弁 本市としては第2層協議体の住民メンバーの中からコーディネーターが育つことが理想と考えており、配置に向けて引き続き関係者に説明を行いたい。拠点の整備については、既存施設の利活用も含め、在り方を研究したい。



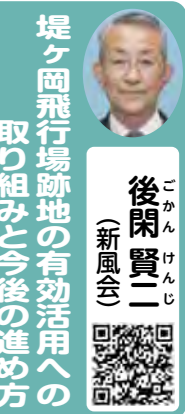
児童・生徒に対する安全教育と対策

質問 小・中学校の校内および登下校時の不審者対策は。

答弁 学校への不審者侵入防止のため、監視カメラも活用して校門や玄関付近の様子に注意を払うとともに、不審者対応マニュアルに基づく初動態勢の確認など、安全対策の徹底に努めている。また登下校時には、警察や交通指導員、PTA等と連携して防犯パトロールを行っている。

質問 学校における自然災害対策と、防災教育の状況は。

答弁 各学校では、防災計画に基づいて自然災害や火災等を想定し、消防署等の関係機関と連携した防災教育のほか、保護者と連携した引き渡し訓練や自主防災組織との訓練など、実態に応じた取り組みを行っている。また、子どもたちが自分の命を自分で守ることができるよう、特別活動等で防災に関する指導を行い、防災意識を高めている。



堤ヶ岡飛行場跡地の有効活用への取り組みと今後の進め方

質問 堤ヶ岡飛行場跡地の活用に向けた農林調整の内容は。

答弁 農林調整では、開発の前提となる市街化区域への編入に向け、まちづくりの必要性、規模や候補地の妥当性、農地への影響などの資料を基に、県や国と協議を行っている。協議が順調に進むと、令和7年度中に開発の担保となる特定保留区域として位置付けられ、さらに詳細な協議や手続きを経て、9年度中の市街化区域編入を目指している。

質問 堤ヶ岡飛行場跡地の活用で目指すまちづくりは。

答弁 飛行場跡地の活用については、令和5年3月に県知事との合同記者会見で公表した「先端情報技術を有する企業等が集積する地域」「DXを活用した地域」「再生可能エネルギーを活用したサステナブルな地域」というコンセプトを基本とし、この方針に沿ったまちづくりを行いたい。

●ユニバーサルデザイン



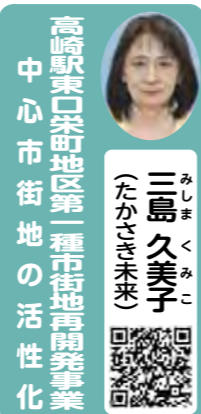
多死社会に向けた取り組み

質問 八幡霊園において個別収蔵施設や合同埋葬施設を整備する考えは。

答弁 八幡霊園では、独立した区画を家単位で継承していく一般墓を貸し付けているが、近年は埋葬方法の多様化によって墓地に対する考え方も変化してきている。今後さまざまな形態の墓地の事例収集を進め、市民のニーズを踏まえながら、多様な埋葬方法について研究していきたい。

質問 高崎観光協会とは別に榛名観光協会があるが、合併してオール高崎の観光振興施策を打ち出す考えは。

答弁 平成の合併の際、観光協会も合併する議論が行われたが、それぞれの個性があり、無理に一つにしないでいこうという結論になったと承知している。市全体の観光振興施策を推進する場合には、高崎観光協会が全体を包括して進めていくものと認識している。



高崎駅東口栄町地区第一種市街地再開発事業

質問 中央公民館が現在地の建て替えではなく、高崎駅東口再開発ビル内に移転することとなった経緯は。

答弁 現在地での建て替えは費用を市単独で賄うことになり、当該再開発事業のように複数の公益施設を集約して合築する場合などは国の支援制度が活用できる。また利便性の面からも、他の公益施設と共に公共交通や徒歩でアクセスしやすい場所に整備することが有益だと判断した。

質問 近隣に子育てなんでもセンターがある状況で、なぜ連雀町の複合ビル内に託児施設を整備するのか。

答弁 当該ビル整備事業の施行者から、公益施設を整備した複合ビルとする事業計画の提案があり、マンション建設等により中心市街地の人口が増加していることや、子育て世帯の需要等も考慮し、託児施設を整備する方針とした。



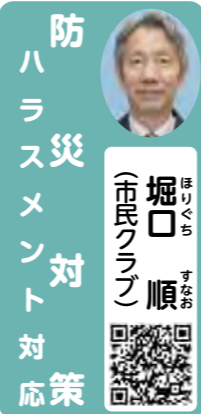
都市公園のユニバーサルデザイン化の進捗状況と、公園トイレの整備状況は。

質問 都市公園のユニバーサルデザイン化の進捗状況と、公園トイレの整備状況は。

答弁 公園のユニバーサルデザイン化は平成14年度から工事を進め、令和5年度末現在で32カ所を整備した。引き続き出入り口の段差解消などの整備を進めていく。また、公園トイレは、まちなか小さな公園美化大作戦5カ年計画により、老朽化したトイレ95カ所のうち26カ所を洋式化した。

質問 本市が取り組んでいるリサイクル事業の内容は。

答弁 本市では年に2回リサイクルイベントを開催し、粗大ごみのリユース事業や、古着・古本、使用済み小型家電の無料回収、廃タイヤ等の有料回収などを実施している。また令和5年度からは、最終処分場で埋め立て処理が必要な素焼きの植木鉢などの交換会を実施し、再利用によるごみの減量化を図っている。



防災ハラスメント対策

質問 災害時の飲料水や生活用水の確保が重要と考えるが、避難所等に防災井戸を設置し、地下水を有効利用する考えは。

答弁 災害時には指定避難所や防災センターに備蓄している保存水のほか、市内11カ所に設置している耐震性貯水槽により、飲料水や生活用水を確保する。防災井戸については、地下水の水位や水質などの課題もあるため、今後慎重に研究したいと考えている。

質問 学校におけるパワーハラスメント対策は。

答弁 全国で起こったハラスメント事例を各学校に送付して注意喚起を行っているほか、校長会議でハラスメントの未然防止等について繰り返し指示している。また部活動では、国や県の方針に基づき、体罰や威圧的言動等の根絶に向けた対策を各競技部で作成し、ハラスメントの重大性に対する意識向上を図っている。